



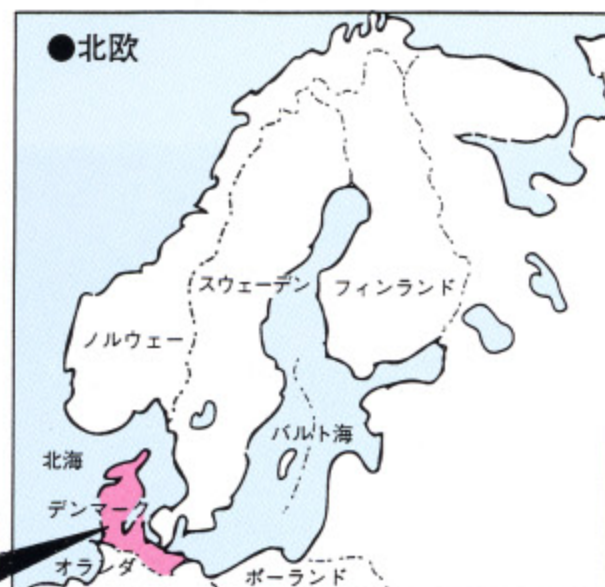
デンマークの福祉施設を訪ねて

■コペンハーゲン県立補助器具センター



写真①●センター入口

デンマーク
DENMARK



1992年2月20日から7泊8日の日程で、自治労大阪府職員労働組合主催のデンマーク「北欧研修旅行」へ参加した大阪府身体障害者福祉センター職員、鈴木望、平井道恭、長門多恵子、香西豊、4名の現地報告である。

「デンマーク国」の福祉に対する取り組み方などを中心に、補助器具センターや施設をご紹介します。

北欧スカンジナビアの最南端に位置し、国土面積は約43,000km²で、ほぼ九州より少し大きいぐらいである。ドイツと陸つづきの半島と、大小500の島からなり、居住可能な島は半分以上。

さて、デンマークは、14地域（県）に分けられ、各県に補助器具センターが設置されている。このセンターは、コペンハーゲン地域（県）を対象としており、県の人口は60万人、県の中に18の市がある。職員はO.T. 3名、テクニシャン1名、事務員1名の計5名である。

センターの役割は、具体的には、市民や施設の職員からの電話での問い合わせに対して補助器具のメーカー、価格、販売店などの情報を提供すること、毎週木曜日をオープンハウスにして誰でも見学できるようにしていること、特別な補助器具のテストや調整を行っていることなどである。補助器具は税金で賄われていて、特別なものを除いて無料で貸し出されている。これは、このセンターが直接貸し出しているのではなく、市の福祉課を通して市立センターが行っている。18の市には50名のO.T.がいて、直接市民と対応して適合テストや判定を行っている。

デンマークのO.T.は、補助器具を必要とする市民や医師、看護婦、ケースワーカーに対して情報を提供したり、コンサ

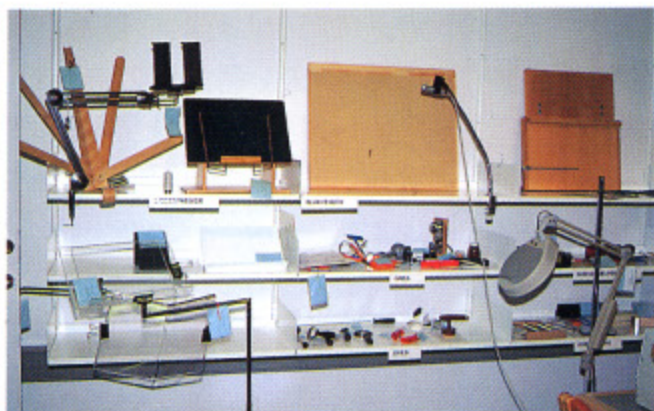


写真②●子供用の座位保持椅子



写真③●計量カップ

〈その1〉



写真④ ● デスクワーク、読書の補助器具のための事務機器



写真⑥ ● 角度調整の洗面台

写真⑤ ● 各種パンフレット



写真⑦ ● 足の不自由な人用のスコップ

ルタント的な役割も果たしている。デンマークではR.T. (リラクセーション・セラピー) という職種があり、日本のO.T. は、R.T.に近いということである。

このセンターには、車椅子、電動車椅子、電動ベッド、リフター、トイレ、入浴関連機器、杖、自助具など高齢者、障害者のための器具が、区画あるいは部屋別に展示されている。フロアーの一角にある書棚にはデンマーク国内外、二百数十社の福祉機器メーカーのパンフレット、商品カタログ類が整然と並べられ情報を提供できるようになっている。

特に気付いた点としては、座席にカーシートを組み込んだ電動車椅子とか、ガススプリングを応用した安楽椅子とか、機能だけでなく、デザイン、座りごこちなど使う側の視点を配慮したものが多かったことである。実際、安楽椅子に座ってみて、座りごこちは非常にソフトであった。補助器具特に自動具に関して、個々の説明を聞きたかったが、種類や品数が非常に多くて一部しか聞けなかったのは残念であった。車椅子が利用者の手許に来るまでの期間については、緊急の場合一、二日で貸し出され、調整が必要な特別な車椅子についても三、四週間で貸し出されるということである。センターで扱っているのは、特別なものがほとんどで、この場合もそれが手許に来るまでの間は、別の車椅子が与えられる。日本の場合、非常に日数がかかることが多いが、ここにデンマークとのシステムの差がはっきり出ている。

現在デンマークでは、高齢者の潜在能力を活かし可能な限り在宅させるという政策が取られているが、在宅ケアの実現を側面から援助する機関として補助器具センターの役割は大きいと思う。



写真⑧ ● 収尿器、オムツ、パンツ



写真⑨ ● 電動車

写真・原稿は、自治労大阪府職員労働組合・福祉支部鈴木望、平井道恭、長門多恵子、香西豊の方々にご協力をいただきました。